

届かぬ小麦 アフリカ悲鳴

ロシア・ウクライナ産に依存

1面から続く

ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、パンの価格が急騰したアフリカ東部の国ウガンダ。首都カンパラのスラム街に5人の子と暮らすアウエコ・ハリオットさん(30)にとって、悩みの種はほかにもある。燃料価格も上昇したため、輸送費がかかるすべての商品の価格が上がったのだ。

火を使うのに必要な炭も、料理に使う食用油も高騰した。ハリオットさんは朝食を抹茶のみで済ませて、昼食は抜き、夕食だけを食べている。「毎日毎日、その日の食事をどうするのかばかりを考えている」

国内大手のパンメーカー「ンタケ・ペーカリー」の社長で、ウガンダペーカリー協会の会長を務めるガスター・ルシさん(64)は「新型コロナウイルスのパンデミックよりも戦争の影響は大きい」と話す。

取引先の貿易企業がウクライナ産の小麦を予定通り入荷できなかったことで計画通りの調達ができず、24時間稼働させてきた工場は4月以降、1日10時間しか動かせなくなった。

原材料価格の上昇も深刻だ。侵攻後に起きた食用油や燃料費の高騰を受け、食パン1斤の小売価格を戦争開始前の3800ウガンダシ(136円)から15%増の4400シへ引き上げた。小麦の仕入れ先からは7月に更新する契約で、価

パン急騰 炭も油も高値 食事は夕食だけに

格を1トあたり400ル前後の現状から550ルに上げる方針を示された。

「パンは不可欠な主食だから利益を抑えて値上げ幅を抑えてきたが、限界がある。戦争が続けば、いずれ工場を止めなければならなくなる。そうなれば2千人の従業員の生活への影響は計り知れない。主要7カ国(G7)は何らかの対策を打ってほしい」と訴えた。

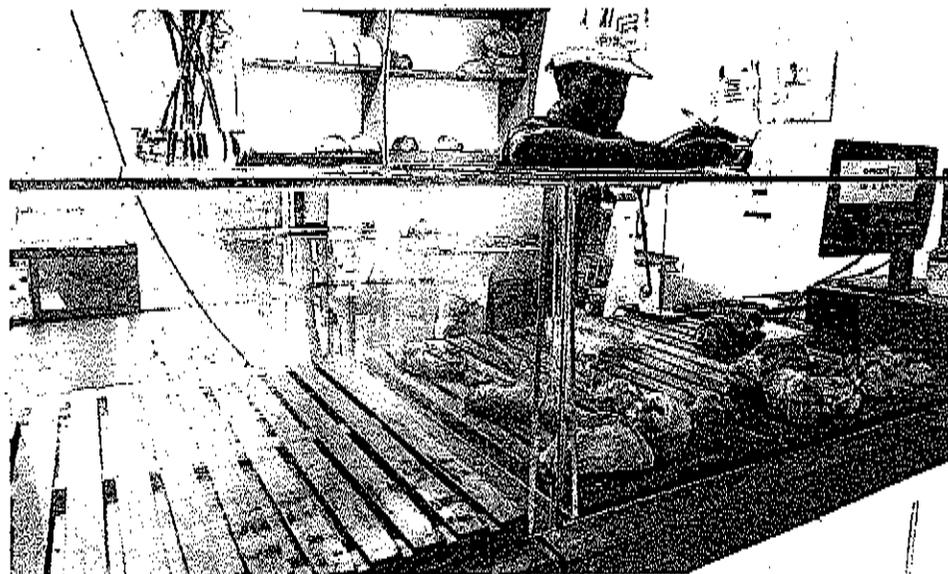
国連貿易開発会議(UNCTAD)の報告書によると、2018〜20年にアフリカ諸国が輸入した小麦のうち、32%にあたる37億ル分がロシア産で、12%にあたる14億ル分がウクライナ産だった。アフリカの25カ

国が小麦の輸入のうちの8分の1以上を、ロシアとウクライナの2カ国に依存しているという。

アフリカ大陸では、ウクライナ侵攻が始まる前から、干ばつや紛争、新型コロナウイルスなど様々な要因によって食料危機が起きていた。

世界食糧計画(WFP)によると、長期の干ばつが続くケニア、ソマリア、エチオピア地域だけでも食料不足に陥っている人は推計1400万人に上り、WFPは年末までに2千万人に達する恐れがあると指摘。ロシアとウクライナの戦争により、状況は「さらに悪化する」と警告している。

(カンパラ=遠藤雄司)



ウガンダにあるパン屋では、小麦不足のため値上げをした上で、商品も品薄の状態が続いているという=14日、エンテベ、遠藤雄司撮影